

住民参加による周辺整備計画について

神田橋 修

独立行政法人水資源機構 利根導水総合事業所 武蔵水路改築建設所 調整課

(〒369-0137 埼玉県鴻巣市大芦827番地)

1967年に完成した武蔵水路は、東京都、埼玉県南部への水供給に貢献してきた一方で、地域住民からは、「地元にも何恩恵のない迷惑施設」として認識されていた。施設の老朽化に伴う改築事業は、2009年に実施計画の認可を受けたが、「迷惑施設」という認識の中、事業を円滑に進めていくには地域住民の声を如何に把握していくかが課題であった。

水路本体の構造やルート等、事業の基本的な部分については、既に実施計画で決められていたことから、当建設所では、水路本体以外の周辺整備計画に地域住民の声を反映させることとした。本稿は、事業実施段階の武蔵水路改築事業で行った住民参加の効果と課題を整理したものである。

キーワード 事業実施段階, 住民参加, 説明責任, 水路改築, 周辺整備計画

1. はじめに

武蔵水路は埼玉県北部に位置する、利根川と荒川を結び約14.5kmの水路である。(図-1)

東京オリンピックを控え、逼迫した水需要に対応するため造られた都市用水専用の水路で、1967年完成以降、東京都、埼玉県南部への安定的な水供給に貢献してきた。(図-2)

一方で、武蔵水路のある行田・鴻巣市域には受益がなく、地域住民からは①水路が排水をせき止め浸水被害が増大した、②転落事故が多く危険である、③道路等の社会的インフラを分断している等「地元にも何恩恵のない迷惑施設」として認識されていた。(写真-1, 写真-2)

施設の老朽化に伴う改築事業は、2009年に実施計画の認可を受けたが、地域住民の「迷惑施設」という認識の中で事業を円滑に進めていくには、地域の声を如何に把握していくかが課題であった。

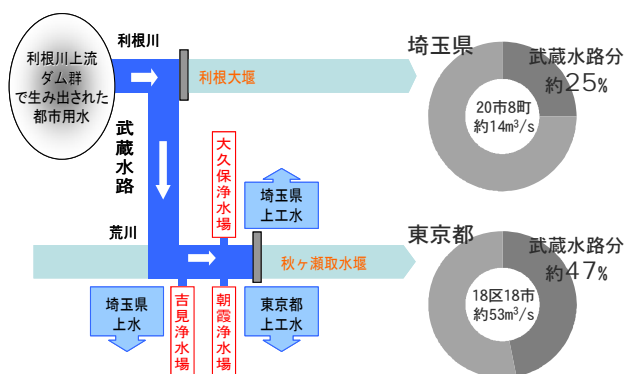


図-2 供給区域における武蔵水路導水比



図-1 位置図



写真-1 浸水被害 (1996年台風17号)



写真-2 浸水被害 (2005年集中豪雨)

2. 住民参加による周辺整備計画

(1) 住民参加のテーマ

水路本体の構造やルート等，事業の基本的な部分については，既に実施計画で決められていたことから，当建設所では，安全施設（管理用通路，フェンス），修景施設（のり面，跡地利用）等，水路本体以外の周辺整備計画に地域住民の声を反映させることとした。（図-3）

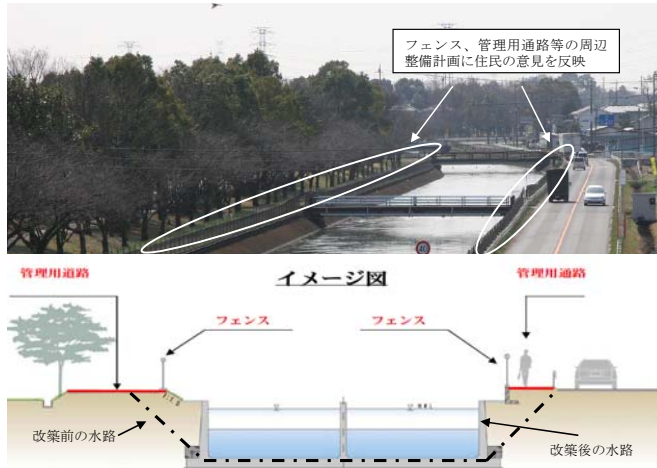


図-3 住民参加の主なテーマ



写真-3 住民参加会議



写真-4 意見箱（各公民館に設置）

(2) 住民参加の方法

当建設所では，「情報提供はより広く，沿線地域の意見はより深く」をコンセプトに，ホームページ，市報掲載，地域回覧等で広く情報提供するとともに，①沿線地域には住民参加会議（ワークショップ），②関係行政区域には住民説明会，各公民館に設置した意見箱③その他関係者にはホームページ内の意見箱を通じて，地域住民の意見把握に努めた。（図-4，写真-3，写真-4）

(3) 住民参加会議

地域住民の意見を把握するため中心として活用したものが住民参加会議である。沿線自治会の代表者，地元行政，水資源機構で構成し，会議は公開とした。また，ファシリテータとして第三者（コンサルタント）による司会進行を行った。水路沿線の約 7,500 世帯を対象に，5つのグループに分けて延べ18回実施した。（図-5）

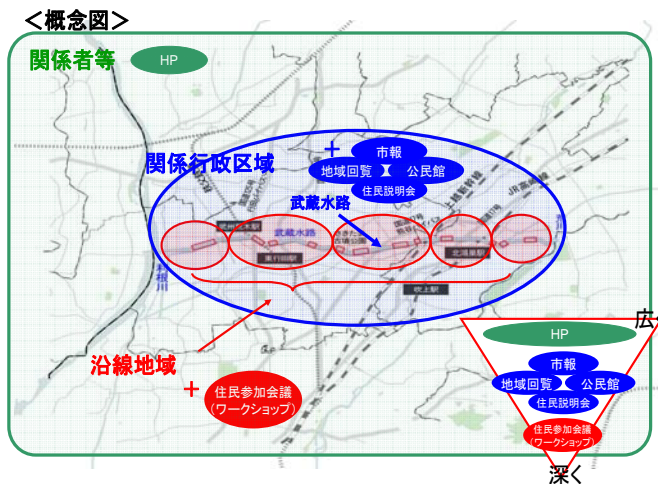


図-4 住民参加の方法

	第1ワーキンググループ	第2ワーキンググループ	第3ワーキンググループ	第4ワーキンググループ	第5ワーキンググループ
沿線10地区 38自治会 約7,500世帯					
行田市域 (沿線6地区 18自治会 約3,500世帯)			鴻巣市域 (沿線4地区 20自治会 約4,000世帯)		
会議開催状況	第1回:6月26日 第2回:7月22日 第3回:8月31日	第1回:6月29日 第2回:8月3日 第3回:9月21日	第1回:7月7日 第2回:8月6日 第3回:9月22日	第1回:10月4日 第2回:10月28日 第3回:11月24日	第1回:7月30日 第2回:9月30日 第3回:10月26日
	第4回:11月25日 (合同開催)		第4回:2011年2月1日 (合同開催)		
	第5回:2011年2月4日 (合同開催)		第4回:2011年2月1日 (合同開催)		
	意見・要望:約46項目	意見・要望:約50項目	意見・要望:約36項目	意見・要望:約24項目	意見・要望:約45項目

図-5 住民参加会議実施状況

(4) 武蔵水路周辺整備計画

整備計画決定までのフローは図-6のとおりである。各ステップで地域住民の意見を聴きながら進めていくことを心がけた。

地域住民からは、住民参加会議等を通じて、約200件を超える意見、要望が寄せられた。安全、修景に関するもの他、事業計画、洪水、道路に関する意見等も多く寄せられている。(表-1)

寄せられた意見、要望は、①意見等の遺漏、重複防止②問題点の共有③調整過程の見える化を目的に、それぞれ整備シート(図-7)を作成し整理した。作成した整備

シートは地域住民への説明の他、内部や関係機関との調整にも使用している。

武蔵水路周辺整備計画は、この整備シート約200枚を取りまとめたものであり、ホームページ、住民説明会等を通じて公表している。

表-1 住民から寄せられた主な意見等

項目	主な意見・要望例
○事業計画に関すること	・水路に蓋をして親水公園を整備してほしい。 ・忍川の浄化のため還流を行って欲しい。
○洪水に関すること	・内水排除施設の拡充をして欲しい。 ・洪水時の窓口や操作基準など対応を明確化して欲しい。
○安全に関すること	・転落事故防止のため、フェンス等の整備をして欲しい。 ・沿線道路には安全対策としてガードレールの設置をお願いしたい。
○修景、景観に関すること	・さきたま緑道を利根川まで延長して欲しい。 ・サイクリングロードを利根川まで連続させて欲しい。 ・水路中央部のしきり(中壁)は目立たない形にして欲しい。
○道路に関すること	・道路の拡幅、改良をして欲しい。 ・歩道を設置して欲しい。
○橋梁に関すること	・橋梁を拡幅して欲しい。 ・橋梁に歩道を設置して欲しい。
○農業用施設に関すること	・側水路の機能低下を回復して欲しい。 ・サイホンの除塵対策をして欲しい。
○事業の進め方等	・要望事項を聞いてもらう場を確保して欲しい。 ・ワーキングのメンバーは各地区もう1人か2人増やして欲しい。
○その他	・火災の際、水路の水を防火用水として利用させて欲しい。 ・洪水等の災害時に大塚の事務所を利用させて欲しい。 ・水路周辺の草刈りをして欲しい。

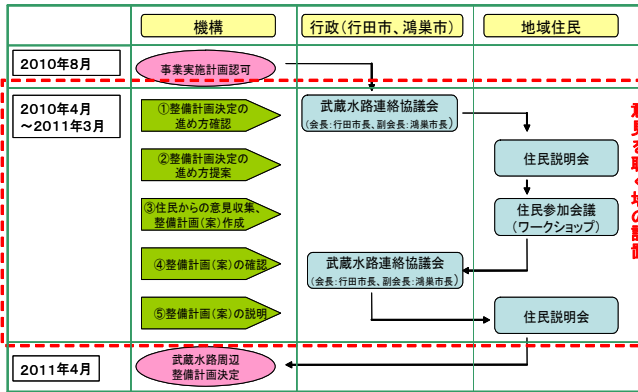


図-6 整備計画決定フロー

意見・要望内容

皆さまから頂いた意見・要望です。同様の主旨のものについては1つのシートにまとめて記載しています。

1. 橋梁部のフェンス高さの改善
2. 通学路である橋梁部欄干下に小学生が入れないように改善(新川橋等)

現地状況

要箇所箇所の施設管理者及び現在の状況を記載しています。

・橋梁の管理者は道路管理者(埼玉県及び行田市)。
・現状は、フェンスが未設置の橋梁等、容易に水路へ立ち入ることが出来る。

対応

機構の対応方針を記載しています。また、必要に応じてイメージ図を記載しています。

●方針

- ・橋梁部にも立入防止用のフェンスを設置します。
- ・フェンスの仕様については、皆さまからの意見を聴きながら決めていきます。

●調整・確認

- ・フェンス構造、高さの決定
- ・デザイン・色の決定

●現在の調整・検討状況

- ・フェンスの構造、高さについてはワークショップで議論した内容を踏まえて決定済み。
- ・デザイン・色については、他のワークショップの状況を確認中です。

調整スケジュール

予定している調整スケジュール、工事への反映までの流れを記載しています。

調整や確認が必要な項目を記載しています。

関係機関との協議調整状況を記載しています。

改築後橋梁部イメージ

橋梁部

図-7 整備シート(見本)

3. 効果

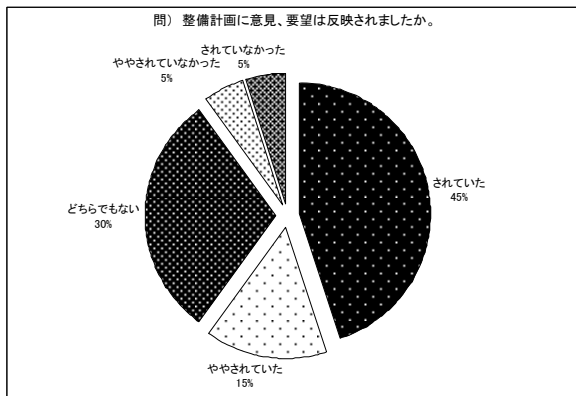
当建設所では、今回の取り組みを検証するため、住民参加会議参加者にアンケートを行い、取り組みの効果を以下のとおり整理した。

(1) 地域ニーズの反映

安全、修景に関するものの他、意見、要望で最も多かったのが、道路や橋に関するものだった。これを受け、当建設所では関係する埼玉県、行田市、鴻巣市と協議を開始した。道路については可能な限り右折帯を設置し渋滞を緩和するとともに、橋梁については架け替えを予定している 58 の橋梁のうち、そのほとんどで拡幅を実施することとなった。

また、当初、水路部と同じ高さ（1.5m）としていた橋梁部のフェンスについて、地域住民との話し合いの結果、より安全性を考慮して 1.8m に決定した。

アンケートでも約 60%が自分たちの意見が反映されたと回答しており、一定の地域ニーズを反映することができた。（図-8）



項目	アンケートでの主な意見
・整備計画に意見、要望は反映されましたか。	(橋梁関係) ・橋梁を架け替えるのであれば、拡幅するのは当たり前である。 ・橋梁拡幅は、今回の改築事業で行うかと思っていた。県、市と調整してもらえたことには感謝している。
	(橋梁部フェンスについて) ・当初、水路部と同じ高さでもよいと思っていたが、より安全性を確保するために水路部より高い方がいいと思うようになった。 ・フェンス等の構造は、機構で決定してもらった方がいい。自分たちに聞かれても分からない。
	(どちらでもないについて) ・地域からの意見、要望の中で、すぐに決められないものについて、結果がまだでていないため。 ・意見、要望に対して機構が関係機関と調整していることは分かったが、結果がどうなるか分からないため。

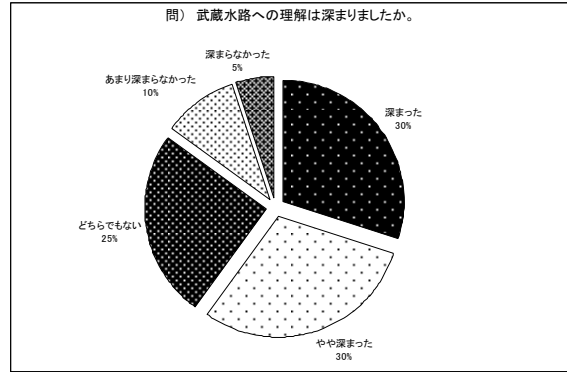
図-8 アンケート結果

(2) 武蔵水路に対する理解度向上

地域住民と接して感じていたことは、武蔵水路の役割等について、理解している人が少ないことだった。例えば、武蔵水路は水路内事故が多く危険であるとの認識については、「事故は故意によるものが多く不慮の事故は全体の約 10%であること」、「近年は減少傾向にあること」を説明し、そのマイナスイメージを軽減した。

また、大雨等で地域に貯まった水を武蔵水路に取り込む内水排除については、「改築事業の前から行っていること」、「改築事業においてさらに機能の強化を図ること」を説明し、水路の地域貢献への理解を深めている。

アンケートでも約 60%が理解が深まったと回答しており、理解度の向上が確認できた。（図-9）



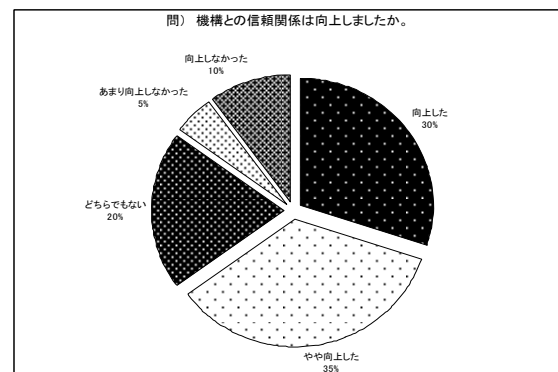
項目	アンケートでの主な意見
・武蔵水路への理解は深まりましたか。	(水路内事故について) ・水路内事故が減少傾向にあることは初めて知った。 ・改築後は、フェンスの整備により、もっと良くなると思う。
	(内水排除について) ・内水排除の実績が2回/年程度あることを初めて知ったので、説明を聞いて良かった。 ・内水排除の効果を理解できた。 ・改築後の一元管理による適切な管理に期待している。

図-9 アンケート結果

(3) 地域との信頼関係向上

武蔵水路の管理開始以降約 40 年間、地域住民は、何か意見や要望があっても、それをどこに言えばいいのか分からない状態であった。

今回、機構の窓口を周知し、意見を聴く場を設置しながら話し合いを重ねることで、地域住民との信頼関係を向上させることができた。（図-10）



項目	アンケートでの主な意見
・機構との信頼関係は向上しましたか。	・地域の意見を聞く機構の姿勢に信頼感を持つことができた。 ・インターネット環境がないので、公民館にある「お知らせ」で気楽に情報が得られたのがよかった。 ・説明会やワークショップ等、顔の見える話し合いは大切である。 ・整備シートにより、我々の意見に対する機構の動きが把握でき、安心感を持つことができた。 ・管理移行前に、できあがった施設をどのように利用していくかをテーマにもう一度ワークショップをしてもらいたい。

図-10 アンケート結果

4. 課題

当建設所では、今回の取り組みを踏まえ、今後の課題を以下のとおり整理した。

(1) 継続参加のための仕組みづくり

武蔵水路の改築事業は、平成 27 年度末で完了予定である。今回の取り組みにより、地域住民との信頼関係が構築されつつあるが、今後は築いた信頼関係をどのように維持していくのか、その継続性が課題となる。事業期間中あるいは事業完了後の管理段階になっても、継続的に地域住民とのコミュニケーションがとれるような仕組みづくりを実施していきたい。

(2) 各方法の定量的な効果把握

今回、様々なコミュニケーション方法を通じて、地域住民の意見把握に努めた。アンケート実施により住民参加会議参加者の反応は確認できたが、地域全体の反応は確認できていない。次につなげていくためにも取り組みの方法について、定量的な把握が必要となる。

(3) 受益地への情報発信強化

実際、受益を受けている東京都、埼玉県南部への情報発信強化も課題である。水供給の重要なインフラとしての武蔵水路の役割、地域住民の思いを如何にして受益地に届けるのか。各浄水場へのパネル展示、上下流交流会、地元行政である行田・鴻巣市の広報活動との連携等、その方法を具体化していかなければならない。

5. おわりに

通常、住民参加は事業の構想段階、計画段階から行うと効果が大いだとされている。今回は事業の実施段階における取り組みであったが、①複数のコミュニケーション方法を用意したこと、②「住民参加会議」を中心に地域の声を直接把握したこと、③整備シートを作成し「調整状況を見える化」したことにより一定の効果を確認することができた。

周辺整備計画の進捗状況については、現在、住民説明会等を通じて適宜、フォローアップを行っている。また、工事進捗に伴い、地域住民の声も徐々に形になってきている。(写真-5、写真-6)

地域住民からは「今後、できあがった施設をどのように利用していくか話し合いたい」との声もいただいております。少しずつではあるが、「機構の施設」から「地域の施設」としての意識変化も生じている。

今後も、地域との信頼関係を維持しながら、迷惑施設からの脱却を図り、地域に親しまれる武蔵水路を目指していきたい。

整備前：歩道スペースなし



整備後：管理用通路の設置

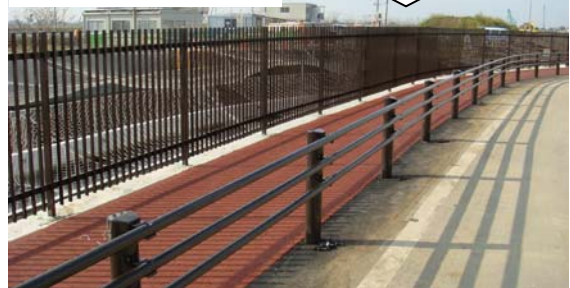


写真-5 地域の声を反映した周辺整備実施

改築前



改築後



写真-6 改築が進む武蔵水路